



いよいよ桜の季節…

全国の桜の見ごろが例年よりも遅かったようです。大館も例外ではないと思っていましたが、桜祭り開始の時には蕾だったのも今は雨にも負けずに咲いてくれます。

過日、去年のこの日に満開の桜を見に行ったら、あの感動を再び！というわけで友人と福島市の花見山公園に行ってきました。残念なことに桜は2分咲き、今頃はもう終わっているのかもしれませんが。

このときに、気仙沼でお世話になっている方々と合流し「遠足」「修学旅行」と称して来館していただきました。友人は、大館は何もないところだからと言いますが、「そんなことはない」と反論すると「じゃあ何がある？」と逆襲。挙げました、いろいろと。ただ残念なことに鳥潟会館は月曜日のため休館、桜櫓館も時間切れで見ることができませんでしたが、曲げわっぱの購入と、曲げわっぱ作り体験、田代温泉ユップラの湯はとても気に入っていただけました。

❁ 「大館」の由来

大館駅前では歴史好きのお二人は、「駅名の由来」を発見。皆さんご覧になったことはあるでしょうか。駅正面向かって左側にあります。私は始めて目にしました。『元慶の乱（878年）の頃、当地一帯は火内…』「ずいぶん歴史のある街なんだねえ」と言われました。県北のかなり広い範囲を「ひない地方」と呼んでいたことや、アイヌ語のピルナイ、肥沃な土地という意味が起源ということは話していたのですが、大館が大楯（おおたて）から始まったことを恥ずかしいことに始めて知りました。「館」という字は熟語で下になると文法的には「だて」と読むのだそうです。大館、角館、田舎館、函館のように。でもどこにでも例外はあるもので、比内地域の西館、東館の両小学校は「たて」と読みます。と、そんな話を思い出した休日でした。

❁ 「生涯読書」ということ

さて、『生涯読書』という言葉をご存知でしょうか。知っているという方はかなりレアな方です。第5次社会教育中期計画の中で『「生涯読書」の充実』が重点施策として挙げられ、どの年代でも読書に親しむという適切な表現、言葉が見つからず考えられた末の造語です。第6次社会教育中期計画では「読書活動の充実」が謳われています。

子どもたちにはいろんな機会を作って本に親しんでもらいたいものです。市で実施しているブックスタート事業の本の受け取りは各図書館でもできます。

ポプラ社の総合百科事典ポプラディアは全12巻ですが、これを読破した人はポプラディア担当の方が知っている限り全国で3人いるそうです、実際はもっと多くいるのかも知れません。3人の内の1人の何故全巻読んだのかの理由が「最初から『へえ〜』が永遠に続いたから」だったそうです。それを聞いて「へえ〜」でしたが、これも小さい頃から本に親しんだ結果なのかなあ、と思ったお話でした。（保）